

久貝・松原の年中行事概説

岡本恵昭

1月1日（ソーガツ） 元旦

新年（ミルドシ）の始まりは、元旦の早朝よりの年中行事（マツリ・ヨーズ）より開かれると言う。村の繁栄と民の健康安全祈願は、最も関心の大きなるものがある。発展のための祈願と年の節目のはじめを、久松では、久貝字と松原字の2ケ字で合同して共催する。祭りは、2つの字の神女集団で行う。

ユーザスンマとツカサンマ、ガンザ、ツカサドゥム、それぞれの神役、日取主、スウイニャーニンツウ（神役）、7名以上が集まって、カーニザーの籠り小屋で4晩5日にわたって夜籠りする。久貝村、松原村の共同祈願は大きな祭りや年中行事の中心的なものにのみ限って行われ、個々の農耕予祝や豊作祈願祭には各字のウタキで夜籠りして祈願する。正月ニガイは、2ケ字よりの神女が集合して、松原のカーニ御嶽を中心にクムズニガイを四日間 にわたって催される。祭りは晦日の晩から4日の朝まで3晩の夜籠りがある。晦日は夜を通しての神願いをする。供物一対が2ケ字から供出され、洗米・塩・3つ重ねの餅（白モチ）・ターラと呼ぶ花米・酒と魚の重箱を並べて願立とする。籠りには、カーニ御嶽（クムズザ）の伝統のある燈明が使用される。昔ながらの灯油（タネアブラ）を用いる。1日目はアラビというので、夜の10時頃より朝の3時頃まで起きて、その間線香を断やさずに燃やしつづけるのである。2日目、3日目は朝から通しの神願いで線香をもやしつづける。3日目の夜は神がかりをする。カンカカイになり、神願のウクイを出す。一年の豊作の予言と部落の運気を神託してもらうために、神願いがある。村の将来の予言は「託宜」という形式で為されるわけである。神懸りした、二ケ字の選ばれた神女達の神願いは、夜通しつづけられる。マンサン（祈願の終了、籠りの終了の意味）は4日目の午前中頃、マンサンのクイチャーとして、正月のクイチャーを一同で円陣を組み共に楽しみ共に悦んで踊りうたう。

豊年のクイチャー（神をたかべる所作で、足を踏みならして拝み手をくりかえし、また拝み手をくりかえしながら前後の進み退ぞきの所作をする）、野崎クイチャー、漲水のクイチャー、雨乞いクイチャーである。マンサンの神事は、一年の始まりと予言の神託を述べて終了する。

久松の神役組織は字久貝、松原がそれぞれ独立して字の神事や祭祀を行っている。松原の神女では、ユーザスンマ（1人）が選ばれて終身これに任じ、その下にツカサンマ（司と呼ぶ神女で年期がある）、それぞれの神女の神行事を助けるツカサドゥム数名が任命されて、1～2年間にわたって義務的に参加する、字の主婦が資格者となる。年に依ってその任期の年と神役を持つ歳は変わるが、48才から入り1年間つとめる制度がとられているようだ。神行事すべてに参加せず相互に交りあいながら、1年3回ほどの行事の加勢をす

れば良いというわけである。ユーザス、ツカサにお供する。ガンザという男の神役は年齢に依ってウタキ行事に参加する義務を任じられた者で、選ばれてこれに任ずる。ガンザの役目は、字の祭事に用いる神具、伝灯明一對・世直し・大皿やパダス（酒容器）を保管し、祭のときに準備することである。その他、御嶽の内外の清掃に係として参加するガンザの役目もある。スウィニャーとは、唐の主の伝承のある屋敷で、7人兄弟の最初に島立てした住居のことで、長男の子孫と言われている家すじの屋号である。この家柄より一人、村の祭祀に参加するならわしである。現在、といっても約20年前より、スウィニャーの家族は那覇に引きあげ移住しており空屋になっている。したがって、スウィニャー家からの祭りへの参加は断えてしまっている。その他、祭りに参加する下役の神女や男達も、代理人を参加出席させることで補充されているが、有志者や信仰有る女性の高齢化や島外居住で、参加者の数は年々少なくなっているのが現状である。

正月2日～3日 ハツウクシ

一年の仕事始めの儀式で、形式的な行事を一家の主人は中心になって行う。

漁業を中心に行っている家では、早朝に持ち舟のパナズ（舳先）に洗米・塩・酒で新年の仕事始めの安全祈願と豊漁祈願を行う。畑を持つ家では畑の出入口の農道を清掃して、畑に新年（ミルドシ）の年始まりの祈願をして鋤を入れる。その日は初鋤入れのみで農耕や他の仕事はしない。

※ヨーズ

旧1月16日祭。（ジウロクニチ） 久貝・松原のヨーズの行事は盛大である。村出身の家族・親族が里帰りする。昔（5～6年前）は、墓地近くの畑（パリ）、原（パラ）に出向いて御馳走の重箱を持参し、供えて遥拝した。そしてウチカビ（焼紙）などを焼いて供物を供える。その後、共食した。今日でも、家族墓・集合した墓地団地のそれぞれの墓庭で集まり、ヨーズをして、親族一同が祖先の新年の案内と家族の健康弥栄を祈願する。ンカイノー（遥拝）である。

※イミムルン

ヨーズが終了すると、日取主は、この行事の日取を定める。丁丑または丁末の日に定め行事する。害虫を獲り追い出す虫払いの行事である。（丑や未は、区長の生れエトに相性として日取する）

ユーザス・ツカサらがウプドマーラにて、洗米、塩、酒、御馳走を供えてムルン祈願を済せ、虫払いの小さな祭りをする。

久貝・松原村ではそれぞれの年中行事を個々に行なっている。この行事も、別々に字単位でなされる。この祈願行事が終って始めて他の願いが出来るという。（宮古島の年中行事の中で虫払い行事が終了しないと他の農耕予祝の願いが出来ないという。共同体の神祭りには、ムルン、ムスルンの厄払いが農耕儀礼へ、そして、村のプーキ願いが村落の魂の厄払いへと展開する特徴を持つものがある。）島の東海岸、西海岸、北海岸の旧村落の年中行事の進行過程を比較すると良くわかる。

これは、旧1月1日～2月中に行事をする事で村落の厄払いが出来ると云い、この行事が始まらない限り、昔は田の生産儀礼が出来なくなるという。いわゆる虫払いは、農耕儀礼の予祝の事前行事であったからであろう。

※ムズヌウガン

壬年～癸末・甲申の3日間。麦の豊年祈願祭。

アラビ(1日目)はユーザス、ツカサ、ツカサドゥムが、ジンゴース(小麦でつくった団子)・洗米・塩・魚(重箱)、酒・線香を供えて麦の豊作の予祝儀礼をする。アガツザー(東座御嶽)、大泊御嶽、カーニ(川根御嶽)などを巡拝し、御願立の最後にウプザー(大座御嶽)に行く。夜の籠りはウプドマーラに泊まる。2日夜籠りをする。

夜籠りに参加する人は、ユーザス、ツカサ、ツカサドゥム(スイニャー)、ガンザ(神役)他男の神役2人の計7名である。(現在は少人数である)、2日目はンナカビ、3日目はマンサンして神役達は解散するが、ユーザス、ツカサ、ツカサドゥムはマンサンの報告にツナフツからツカサガン・カーニ・ウプザーの御嶽に、順次終了願いをする。マンサンの折は神前でクィチャーブドイをして別れる。

※浜ダミウガン

乙未または壬申に行なうパマ(浜)の安全祈願祭。松原字のユーザス、ツカサ、ツカサドムは、ウプドマーラ御嶽よりカッジャー、アンツアー、グジンパマ、ズガツパマ、フカイバーの順に祈願する。浜に集まっていた人達はいっせいに馬に乗り各家に帰る。家畜の持つ病いは、害虫が原因であるとして、牛馬羊などの悪気払いをするという。ムルンは、アカパマ近くのアラカー(ムスルンの浜)で行なう。

※サニツ

女の節句で、浜降りの行事がある。潮の引く時を利用して浜に降り、貝を取ってくる。家では、シナ汁をつくって今年の厄払いをする。家族の人々は必ず海水を足につけて病気の厄払いするという。

クバシアモチ(よもぎモチ)をカンダナ(仏壇)やマウダナなどに供えておく。

クバシアモチは四角形、ヒシ形のモチ(ヨモギ入りモチ)をたべることに依って身体に入った病を除く効果があるという。

若い女性たちはトンガラヤーをつくって遊び、御馳走を重箱につめ浜下りしてあそぶ。

※ムギプーズ(アマガサ)

甲寅、甲申の日に行う麦の豊年祭。

ユーザス、ツカサがウプドマーラで豊年感謝の祈願をする。又この日は字の各戸より供出した麦の初物を判断する。ツカサの家でニギリメシをつくり、酒(麦でつくるシク)を持参して、ユーザス、ツカサ、ツカサドム、カントク(総務、男の神役)、スイニャー、ピューズ主(日取り主)ウプザーガーラ、ンムヌ主のイビに供える。公民館のウカマガンにも供える。

※学校ダミ、ミチダミニガイ

乙亥の日に行われる。学校（久松小中学校）への道路、学校内外の生徒の交通安全と身体長久、健康を祈願する。学校のイビを中心に願立てする。ユーザス、ツカサ、ツカサドゥムが洗米、塩、魚、パナ、ジンコースなどの供え物を持参して、ウプドマーラ御嶽、東座、学校の校門、通用門、学校内のイビなどを巡拝する。通行道路では必ずミチ（道路）ダミをする。

※アーヌウガン（粟の御願）

壬子、癸丑、甲寅の3日間にわたって行われる粟の豊作祈願である。粟の豊作のタテバンの願立てのことである。御嶽を巡拝して今年の粟作が豊作であらんことを祈る。ウプドマーラ（大泊御嶽）に2晩夜籠りをする。3日目にマンサンとして、ふたたび各ウタキのイビに終了の報告をする。御嶽は、東座御嶽、大泊御嶽、ツナフツ御嶽（松原）、ツカサガン（松原）、川根御嶽（松原のザー・カーニ）、ウプザー御嶽（松原ソムス御嶽）では農耕豊作の祈願祭、結願祭には願立て（タテバン）したり、願を感謝するホドキをしたりする。ホドキ願いということばはないが、マンサンのオレイ（御礼）と報告が松原村の御願の形式である。御嶽は順次イビに線香を立て、アライバナ・塩・御酒・酒・アーヌンサグ（ソク）を供えて巡拝する。アーヌクは里の家々から子供達がもらいにくる。

※第三四目ムルン（オワリスムルン）

丁丑または丁未の日に行く。イミムルンと同じ儀礼をする。御嶽を巡拝する。このように同じ目的を持つ祭りを分けて重ね願いをするをガザンブンと云う。

※マミヌウガン（豆の御願）

壬午 癸末 甲申の3日間にわたる御嶽で赤豆などの御願立で豊作を祈願する。村の主要の御願を巡拝して回りウプドマーラに2晩夜籠り3日目にマンサンして、始めの日に願立てした順に満散の報告の巡拝をする。第一日目、アラビ、願立てをして御嶽のイビに線香をつける、ソナカの日、籠り座で行事をする。マンサン（3日目）には、第一回の農作予祝祭と同じ様式で祭りの満散報告のため御嶽をめぐる。

※ウミノウガン（海の御願）

日取り主の選んだ日に祈願は行なわれる。ユーザス、ツカサ達が、ウプドマーラとアンツアー、クジン、スガツ、フカイバーの各浜を巡拝してイビを拝み、ハーリー行事に関係ある漁師や船を持つ人が出席する。海上安全と豊漁の祈願祭である。

※ソムヌウガン（芋の御願）

甲辰、乙巳の2日間にわたって行われる芋（ソム）の豊年祭。ウプドマーラでの一晩の夜籠りがある。東座、ウプドマーラと農耕にかかわる御嶽に願立てし、2日目のマンサンには、東座でマンサンの報告をするまで、願立てした御嶽を終了願として巡拝する。

※4月プーズ（6月プーズに代行される。）

粟の豊年祭で甲、乙の日に行く。ユーザス達での粟の豊年祈願をする。サラピヤースがある。アーク主が2名で大皿をピヤース行事をの粟シクをつくり組や里ごとにウプドマーラに集め、大皿ピヤースをする。各里より集められた粟は粟シク（ミキ）となって、里や組の家々に分配される。行事は各字単位でなされるものが多いが、プーズ、ユークーは、久貝、松原合同の神役によって行われる。

※ハーリ（海人祭、ハリウセン競漕行事）

ユツカヌヒー（5月4日）又は5日にかけての海にかかわる漁民と村人の祭りで、豊漁大漁の祈願行事が行われ、ウガンバーリーと本バーリーの競漕が数隻の小舟（サバニ、スーニ）で催される。松原は神願いの後、スガツパマにてウガンフニ（御願舟）を一隻出して御願立てをする。その後、本バーリーに移り、4隻の舟（サバニ）が競漕をする。神役は、公民館のイビ、カーニ・ウプドマーラ御嶽・アンツアー、クジン浜、ズガツ浜・フカイバー・ヤマトバマを巡拝して大漁祈願祭をする。

※6月プーズ（粟の豊作感謝祭）

甲乙の日を選んで行う粟の豊年祈願祭である。粟の豊作を喜び、大皿・角皿のピヤースをする。神事は4月プーズと同じ。

※リウグウガン（竜宮御願）

庚寅、辛卯の日を取って行う。竜宮神に海上安全、豊漁を祈願する祭りである。アスザー・カーニ・ウプザー・ウプドマーラ・ツカサガンのイビを巡行して願立てして巡る。1晩ウプドマーラ御嶽で籠る。終了は翌日の午前中にすませる。竜宮ウサギといって、旧6月中に、漁村ではヤーサザス（家のサスンマ）を頼んでウプドマーラで里の神願い、個人の健康願い、仕事の安全祈願や船の願いなどをしてもらう。竜宮神は大御嶽にイビがあり、大世や運気を司どっていると信仰される重要な神である。

※スツ（節の折目、甲午の日に行く島をあげての行事）

早朝、浜に出て小石を拾いターラ（俵）としてウカマ神（火の神）に供えて世を乞う。女達は若水をくみそのバカミズで茶湯をわかして神佛にあげる。干潮になると家の人は浜に出て、貝（シナ）を取って、これをバカミズで炊き、シナ汁にしてウカマ神、カンタナ、マウダナに供える。そしてソーズバリと言って、若水で家の内を清掃し、「世や直れ、世や直れ」と言って洗米・塩で屋敷や座敷を清める。シナ汁を食した後に貝殻のみを門の上や石垣（ツンブン）にのせておく。夕方、酒と米と塩を持って畑へ行く。この日一日は仕事はしない。

※プーキスタミニガイ

庚子辛丑の日に行く字や個人の厄払いの願いでもある。字松原の人々の健康を祈願し、

事故が起きないように神事をする。プーキスタミタテバンは、願立でのことでウプドマーラに一夜籠り願いをして、翌日マンサンの御願成就を報告する。プーキとは、村に入り込む病気、事故、伝染病を言う。

※カーニガイ（古い井戸の神のニガイ）

村の主たる堀井戸のイビに水の神の感謝の願い事をする。井戸の神に感謝するニガイである。

始めにカーニガーなどの清掃と、その水の神のイビを祭る、その後、字の井戸のイビを巡拝する。

※ブーギヌウガン（砂糖の御願）

甘蔗の豊作祈願祭である。甲・己巳の日に行く。ユーザス達によって字や里の各農作物の豊作を祈願する。御嶽を巡拝して拝み、夜はアガッター（東座・松原入口にある。）に仮小屋をつくって一晩夜籠りする。東座には、キビの豊穰を祈願するイビが祭られているので、このイビに生のサトウキビを供える。終了マンサン願いは、各御嶽を順次に報告して巡る。このウガンだけは、「東座」を中心に行ない、夜籠りもこの時だけである。

○旧7月7日（タナバタ）

墓の清掃に出る。墓地の移動は近来一内墓や家族墓になって、この日に行くようになった。旧墓地は今日あまりみられない。新しい字の墓地団地の家族墓に参拝し、花やごちそうを供えボンの案内をする。墓地内外の清掃にあわせて行なう。

○ウラボン、ボン

祖霊を迎えてのウラボンの行事。市内と変わらないのでここでは説明を略す。旧13日はンカイピツ、14日はナカビ、15日はウフィユーという。古来からの伝統である祖霊祭で盛大に行なう。

※敬老会

久貝、松原字ともに個々の吉日を取って行う敬老の行事である。松原は8月に行く。字長が公民館又は、集落センターに会場をつくって敬老会を催す。この日、島外から村出身者の参加があり、又新入老人クラブ会員達の親族は盛大な祝宴をする。

※八月十五夜（ジュゴヤ）

家族を中心に、フキャギモチをつくり、先祖に供えて月見をする。子供達、若い人々は、クイチャーを踊ったり、シーサー（獅子）踊りをしながら各戸巡りをする。ザー（広場）では、昔は野崎クイチャー・雨乞いの踊りが夜通し行われていたという。

※ユーヌタミニガイ

農作物の祈願、願立のニガイで、ツカサ達が御嶽で籠り願いをする。ウプドマーラでの

夜籠りは一年越しにある。

※ンムズニガイ（唐芋の豊作感謝祭）

大座ガーランムヌ主御嶽で、祭神ガーランムヌ主を祭り芋の豊作感謝祭を行う。

ウプザー（大座御嶽）は、ガーラウヤシューを祭神とする屋敷跡のイビがあり、芋を最初にこの地に始めて植えつけて上げた船頭（ガーラ）であったという伝説がある。以来、芋ウガンは島の内外より参拝が断えない時があった。

※ユークー（第一回目のユークー）

大世乞というて農作物の豊穰を乞う共同体祭である。松原、久貝合同の村のユーザス達がユークインマ87～8名）が共同参加して行う。村のユークインマは、ある年齢からトイに依って選出され、村のユタ（カンカカリヤ）の神宣をうける。そして選出される村の女性のエト（十干十二支）と相性（トイ）の合う年廻りの女性を定める。ユークインマはユーザスと相性のエトを決めるので、エトはクジでも神宣でも、同じ相性のあるエトの女性が決まる。ユークインマが参加して、各々、魚などの重箱に御馳走を用意して供え祈願する。ユークイは、海の彼方から訪れ天降りする世の神、豊穰の神々を白衣（神羽）のすそを持って受けとめるといふ動作をする。大泊の庭には七人兄弟が漂着し船のトモツナを結んだと言われのある「ユーク石」が立っている。その石を中心にユークーンマ達は、ユーザスの先頭に従って円陣をつくり、廻りながらユークーアグを謡う。神羽という白衣のスソに大世を受けとめながら廻りうたう。この行事が終了すると、東座御嶽で同じようにユークーブドウをする。マンサン（満散）には「豊年のうた」などのクイチャーブドイをする。

※9月プーズ

4月プーズ、6月プーズ、9月プーズ、同様の儀式で豊作物の豊作祈願祭を言う。松原はカーニ、ウプドマーラ、大座御嶽、東座を中心に巡拝して祈願する。

※ツカサヤータスキブンニガイ

旧9月中に村のユーザス達が漲水御嶽に参拝して、家民の健康祈願をする。

ウプドマーラ、アガッザー、カーニ、ツナクツと巡拝祈願を行い、島立てての神を祭祀するツカサヤー（漲水御嶽）で拝みする。村人の有志の個人的な拝みもある。タビダスケといって、旅に出て本島や本土で移住している家族の人々の拝みである。

※ナカヌユークー（第2回目世乞い）

甲申の日に行う。この世乞いの祈願は、はじめの（第1回目）世乞い行事と同じ巡拝と世乞い儀礼を同様にくりかえす祭りであるが、村の女性が必ずユークインマにヌイジュ（のりのあえもの）とニキリメシ（パンマイ、イズー）を各家々より供出して参加するという村の女性達役員参加の世乞い行事になる。この家々より参加する人数には、「ウリパジミ」と稱する「ユークインマ」に始めて参加しその資格を得る女性を言い、この女性の

家では、ユーザスンマ、ツカサ達や他のユークインマの分も御馳走や赤豆入りのにぎりめし（イズウ）をふるまい分として供出しは分配するために用意するということがあった。

※カーヌウガン（旧 8月又は9月に行う古い井戸の祭り）

東座、ウプドマーラ、カーニ、アガツザガー（井戸）、アガイヌカー（井戸）、カーミ（井戸）、イズ（西）ノガー（井戸）を廻り、井戸のイビに祭りをする。井戸の神（イビ）、水の神に感謝する行事である。

※オワリヌユークー（第三回目の世乞う）

甲寅（旧9月～10月中）に行事をする。儀礼は神女達が最初の世乞いのごとく巡拝とユークイの踊りをウプドマーラと東座で行い、マンサンのクイチャーブドイを踊り、直会をする。

※ンムプーズ（芋の豊作感謝祭りである。）

1月11日～12月、乙巳に行う。

ユーザス、ツカサ達の一行が豊作願にかわる。東座、大泊御嶽、ツナフツ、ツカサガン、カーニ、大座御嶽に、洗米・塩・芋酒・重箱（カラ魚やテンプラ）ジンコース（団子）を供えて、芋の豊穰を感謝する。

※ザーグル（スマフサラシのこと）

12月中の丁丑、丁来、癸丑のうち吉日を選び、島フサラシ（ザーグル）の行事をする。久松では、ザーグルと呼んで家や村、里からの災難を払い、疫病除けの祈願をし、悪気が村に入りこまない願いをする。

ユーザス、ツカサ、ツカサドム達一行は、東座御嶽、ジンシドゥー御嶽（里の神）、ウヤンマの神、スマンミ（島嶺）のイビを巡って祈願する。線香はスマンミとアガツザのイビの香炉で焚くが、他の拝所、里の神のイビではたかない。豚を殺し（20年前）、豚の頭を東座のイビに他の骨をフカイバーとカツジャーのイビ香炉に供える。縄を部落の入口三ヶ所に張りめぐらす。字民は東座に集まり豚肉を分けてもらい1年間の無病息災と健康を感謝して、その分け前を食べる。

神役達は東座で直会をして御馳走にあづかる。大晦日を、年の夜と稱し、新年を迎える用意をする。神役は夜になって、カーニ御嶽で新年の夜籠りに入る。（以上）

【参考】

※日取りの十干・十二支の「庚子」「丁丑」などのえとは、松原の日取主が曆から選出したものである。

村ガスやツカサの生まれ歳（トイ）廻りをもって選定するという。日取は松原の垣花昌美氏が38年近く字の祭事日取りを取り報告してきた。日取り主の祭祀日取りの条件は、古来より口頭伝承で定められており、その伝承に従って日取する。

例えば、ユーザス（字松原）のトイがトラの歳生れであれば、そのトラドイ生れの人と

してそれに相対するエトを定める。クサテ（腰当）ドイとして、ウシ歳生まれ、3カドとしてタツ歳生れのエトの人物を選定し、その歳当日に行事をさせて、クサテカド、4カド、6カド、8カドを日取る。又、里のサスのトイ、日取主のトイ祈願を依頼するトイ（生れ歳）を考える。一般に日取りの暦日は『高島暦』が用いられている。

平成6年 甲戌年 久貝・松原部落行事（上半期）

祭名	新暦	旧暦	十干十二支
ムルン	3月16日	2月5日	辛 丑
井戸ウガン	3月19日	2月8日	甲 辰
ウガン	4月2日	2月22日	戊 午
浜ダミ	4月16日	3月6日	壬 申
学校ダミ 道ダミ	4月19日	3月9日	甲 亥
第2回ムルン	4月21日	3月11日	丁 丑
粟ヌウガン	5月2日	3月22日	子 丑
プーズアマガサ	5月5日	3月25日	辛 卯
スツ	5月8日	3月28日	乙 午
芋ヌウガン	5月18日	4月8日	甲 辰
第3回ムルン	5月21日	4月11日	丁 未
4月プーズ	6月3日	4月24日	庚 申
海プーズ	6月6日	4月27日	亥
海神祭	6月12日	5月4日	
豆ヌウガン	6月25日	5月17日	午未
龍宮ウガン	7月3日	5月25日	庚 寅
キビヌウガン	7月17日	6月9日	甲 辰
プーキダミタテバン	7月26日	6月18日	丑
6月プーズ	8月2日	6月25日	庚 申

平成6年 乙亥部落行事（下半期）

祭名	新暦	旧暦	十干十二支
松原敬老会	9月11日	8月6日	庚 子
久貝敬老会	9月12日	8月7日	辛 丑
旅ダスキ	9月22日	8月17日	辛 亥
第1回ユークー	9月25日	8月20日	甲 寅
ユースタミ	10月11日	9月7日	庚 午
第3回プーズ	10月19日	9月15日	己 寅
第2回ユークー	10月25日	9月21日	甲 申
松原ザー祝	10月10日	10月8日	庚 子
久貝ザー祝	11月12日	10月10日	壬 寅
ウプザーウガン	11月15日	10月13日	乙 巳
第3回ユークー	11月24日	10月22日	甲 寅
プーキダミ	12月4日	11月2日	乙 子丑
芋プーズ	12月9日	11月7日	己 巳
ザーグル	1月6日	12月16日	丁 未
	1月17日	12月27日	

平成7年 乙亥年 久貝・松原部落行事（上半期）

祭名	新暦	旧暦	十干十二支
ムルン	3月17日	2月17日	丁 未
麦ヌウウガン	3月28日	2月28日	戊 午
井戸ヌウウガン	4月7日	3月8日	己 辰
浜ダミ	4月11日	3月12日	壬 申
学校ダミ 道ダミ	4月14日	3月15日	乙 亥
第2回ムルン	4月16日	3月17日	丁 丑
粟ヌウウガン	4月27日	3月28日	戊 子丑
プーズアマガサ	4月30日	4月1日	辛 卯
スツ	5月3日	4月4日	甲 午
イモノウウガン	5月13日	4月14日	甲 辰
第3回ムルン	5月16日	4月17日	丁 未
海プーズ	5月20日	4月21日	辛 亥
4月プーズ	5月29日	5月1日	辛 申
海神祭	6月1日	5月4日	
豆ヌウウガン	6月20日	5月23日	癸 午
龍宮ウウガン	6月28日	6月1日	庚 寅
キビヌウウガン	7月12日	6月15日	甲 辰
プーキダミタテバン	7月21日	6月24日	癸 丑
6月プーズ	7月28日	7月1日	乙 申

平成7年 乙亥部落行事（下半期）

祭名	新暦	旧暦	十干十二支
松原敬老会	8月30日	8月5日	癸 巳
久貝敬老会	8月31日	8月6日	甲 午
旅ダスキ	9月5日	8月11日	戊 亥
第1回ユークー	9月20日	8月26日	甲 寅
ユースタミ	10月6日	8月12日	庚 午
第3回プーズ	10月26日	9月3日	庚 寅
第2回ユークー	11月13日	9月21日	戊 申
第3回ユークー	11月19日	10月12日	甲 寅
ウプザーウウガン	12月4日	10月10日	己 巳
松原ザー祝	12月14日	10月22日	巳 卯
久貝ザー祝			
プーキダミ	12月23日	11月2日	戊 子丑
イモプーズ	12月28日	11月7日	癸 巳
ザーグル	2月10日	12月22日	丁 丑